茨木市立　大池小学校　茨木っ子グローイングアップ計画

平成３０年１０月作成

1 ３年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	連携カリキュラムの活用	連携カリキュラムの実践 連携担当者会議の開催 「いきいきスクール」の開催 学校事務の共同実施 3校合同研修の開催 合同授業研の開催 3 校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加。 教材の交流 児童・生徒の交流	連携カリキュラムの検証と改善 連携担当者会議の開催 「いきいきスクール」の開催 学校事務の共同実施 3校合同研修の開催 合同授業研の開催 3 校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加。 児童・生徒の交流 各校の取り組みの交流	連携カリキュラムの総括 連携担当者会議の開催 「いきいきスクール」の開催 学校事務の共同実施 3校合同研修の開催 合同授業研の開催 3 校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加。 児童・生徒の交流
確かな学力の育成	自分の意見を持ち、表現できる子ども	・研究授業・公開授業や研修会の開催。 ・自主研修会の開催。 ・授業の基本型（大池スタンダード）の実践と検証。 ・ＩＣＴ機器を有効的に活用。 ・校内の「ノートの達人」の充実。 ・週に１度、読書活動の時間の確保。 ・基礎学力の定着するための時間の確保。 ・自主学習への取組み	・研究授業・公開授業や研修会の開催。 ・自主研修会の開催。 ・授業の基本型（大池スタンダード）の実践と検証。 ・ＩＣＴ機器を有効的に活用。 ・週に１度、読書活動の時間の確保。 ・各取組みの検証・次年度への改善。 ・自主学習への取組み ・基礎学力の定着するための時間の確保。	・研究授業・公開授業や研修会の開催。 ・自主研修会の開催。 ・授業の基本型（大池スタンダード）の実践と検証。 ・ＩＣＴ機器を有効的に活用。 ・週に１度、読書活動の時間の確保。 ・各取組みの検証・次年度への改善。 ・自主学習への取組み ・基礎学力の定着するための時間の確保。
豊かな人間性を育む	心豊かにお互いをみとめあう子ども	・道徳科の授業作りの研修、評価に向けての検討 ・アンケート実施。 ・アンケートをもとに人権教育の重点目標の設定。 ・児童会によるあいさつ運動・仲良し交流会の実施。 ・図書ボランティアによる読み聞かせの実施。 ・外部講師を招いて体験学習の実施。	・道徳の授業実践の交流や研修会の実施。 ・児童会によるあいさつ運動・仲良し交流会の実施。 ・図書ボランティアによる読み聞かせの実施。 ・外部講師を招いて体験学習の実施。	・道徳の授業実践の交流や研修会の実施。 ・児童会によるあいさつ運動・仲良し交流会の実施。 ・図書ボランティアによる読み聞かせの実施。 ・外部講師を招いて体験学習の実施。 ・課題の共通認識を図る。
健康・体力の増進	自分の身体を知り、運動に進んで親しむ子どもの育成	・全学年で体力テストの実施及び結果分析を行い、各学年の課題の共通認識を図る。 ・講師を招聘し、校内研修を行う。 ・茨木っ子運動Ⅱの検証。 ・校内研究授業の実施。 ・スポーツタイムの場の設定。 ・備品等の充実といった環境の整備を図る。 ・給食の月間目標、食育の全体計画の作成。 ・日めくりカレンダーを用いた給食指導の実施。 ・体力テストの結果を用いた生活面や健康面の見直し、指導。	・全学年で体力テストの実施及び結果分析を行い、各学年の課題の共通認識を図る。 ・講師を招聘し、校内研修を行う。 ・新学習指導要領のポイントについて学ぶ。 ・校内研究授業の実施。 ・スポーツタイムの場の設定。 ・備品等を充実させ環境の整備を図る。 ・給食の月間目標、食育の全体計画の作成。 ・日めくりカレンダーを用いた給食指導の実施。 ・体力テストの結果を用いた生活面や健康面の見直し、指導。	・全学年で体力テストの実施及び結果分析を行い、各学年の課題の共通認識を図る。 ・講師を招聘し、校内研修を行う。 ・新学習指導要領に応じた研究授業の実施。 ・スポーツタイムの場の設定。 ・備品等を充実させ環境の整備を図る。 ・給食の月間目標、食育の全体計画の作成。 ・日めくりカレンダーを用いた給食指導の実施。 ・体力テストの結果を用いた生活面や健康面の見直し、指導。
支　援　教　育　の　充　実				

2 今年度の結果と取組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと
良好な結果であった。

②書くこと
概ね良好な結果であった。

③読むこと
良好な結果であった。

④言語事項
概ね良好な結果であった。

（問題形式）

①選択式
良好な結果であった。

②短答式
概ね良好な結果であった。

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）
・もっとも正答率の高かった設問
図書館への行き方の説明として適切なものを選ぶ。
・もっとも正答率の低かった設問
文と文のつながりがあっていない分を選択し、書き直す。
・もっとも無解答率の高かった設問
漢字の書きとり
・もっとも無解答率の低かった設問
慣用句の意味と使い方として適切なものを選ぶなど。

国語B

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと
良好な結果であった。

②書くこと
概ね良好な結果であった。

③読むこと
概ね良好な結果であった。

（問題形式）

①選択式
概ね良好な結果であった。

②記述式
概ね良好な結果であった。

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）
・もっとも正答率の高かった設問
話し合いの司会者の役割についてとらえる。
・もっとも正答率の低かった設問
目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く。
・もっとも無解答率の高かった設問
目的に応じ文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。
・もっとも無解答率の低かった設問
話し合いの中で、質問の意図をとらえるなど。

分析

・国語Ａ・Ｂともに概ね良好な結果であった。
・国語Ａでは、特に慣用句の意味理解や、文章の内容理解について良好な結果であった。漢字の書き取りに関して、覚えていない漢字は無解答率が高かった。
・国語Ｂでは、話し合いにおける司会の役割を捉えることについて良好な結果であった。考えをまとめたり、内容の中心を明確にして書いたりする記述問題に課題が残った。

○●算数●○

算数A
（領域ごと）
①数と計算
概ね良好な結果であった。
②量と測定
概ね良好な結果であった。
③図形
概ね良好な結果であった。
④数量関係
良好な結果であった。

（問題形式）
①選択式
良好な結果であった。
②短答式
概ね良好な結果であった。

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）
・もっとも正答率の高かった設問
角度の大きさについて

・もっとも正答率の低かった設問
円周率を求める式

・もっとも無解答率の高かった設問
折れ線グラフから変化の特徴を読み取る。

・もっとも無解答率の低かった設問な
混み具合の比べ方の方法など。

算数B
（領域ごと）
①数と計算
良好な結果であった。
②量と測定
良好な結果であった。
③図形
良好な結果であった。
④数量関係
良好な結果であった。

（問題形式）
①選択式
良好な結果であった。
②短答式
良好な結果であった。
③記述式
良好な結果であった。

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）
・もっとも正答率の高かった設問
示された情報を解釈し、条件にあう時間を求める。

・もっとも正答率の低かった設問
情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する。

・もっとも無解答率の高かった設問
情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する。

・もっとも無解答率の低かった設問な
示された情報を解釈し、条件にあう時間を求める。

分析
・算数Ａについては、概ね良好な結果であった。
・算数Ａでは、数量や図形についての知識・理解が良好な結果であった。分度器を活用して１８０° よりも大きな角を求めるなどの技能に関する問題に課題が残った。
・算数Ｂについては、良好な結果であった。
・算数Ｂについては、どの領域も良好な結果であった。グラフを活用する問題についてはやや課題が残った。

○●理科●○

（領域ごと）

①物質

概ね良好な結果であった。

②エネルギー

概ね良好な結果であった。

③生命

概ね良好な結果であった。

④地球

概ね良好な結果であった。

（問題形式）

①選択式

概ね良好な結果であった。

②短答式

概ね良好な結果であった。

③記述式

概ね良好な結果であった。

（無解答率）

概ね良好な結果であった。

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問

2つの異なる方法の実験結果を分析して考察する。

・もっとも正答率の低かった設問

実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する。

・もっとも無解答率の高かった設問

実験を通して導き出した結論を記述する。

・もっとも無解答率の低かった設問

堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解するなど。

分析

・理科について、概ね良好な結果であった。
・無解答率は低く、概ね良好な結果であった。ただし、実験を通して導き出した結論を記述する問題については無解答率が若干高かった。
・予想を基に結果を見通して実験を構想する設問は良好な結果であった。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

・正答率について、全国を上回っていて、ここ数年例年並みの傾向であった。

・算数の発展的な問題に関して、ここ数年と比べ上昇している。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

・学力高位層は、上昇傾向にある。

・学力低位層は、ここ数年、ゆるやかな上昇傾向にある。

・エンパワー層については、減少している。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

・全学年，研究授業か公開授業のどちらかに取り組むことで，授業の流れや発問の仕方について研究を深めていく。一年を通して同じ講師の先生に指導していただき、職員の共通理解を図る。

・各学年の学習のきまりを継続していき、１～６年生までの学習環境を統一し基本姿勢を定着していく。

・発表の仕方、話の聞き方を教室掲示し、安心して話せる学級環境つくりを行う。

・ノートのきまりを精査し児童が学習したことを振り返ってわかるようなノートを目指す。

・算数科の四則計算など基礎的な内容の問題を週に一度朝の学習や毎時間の始めの短時間で取り組む。

・児童が自分の考えをかけるよう、導入の工夫や考える時間の確保ができるような授業を実践し研究していく。

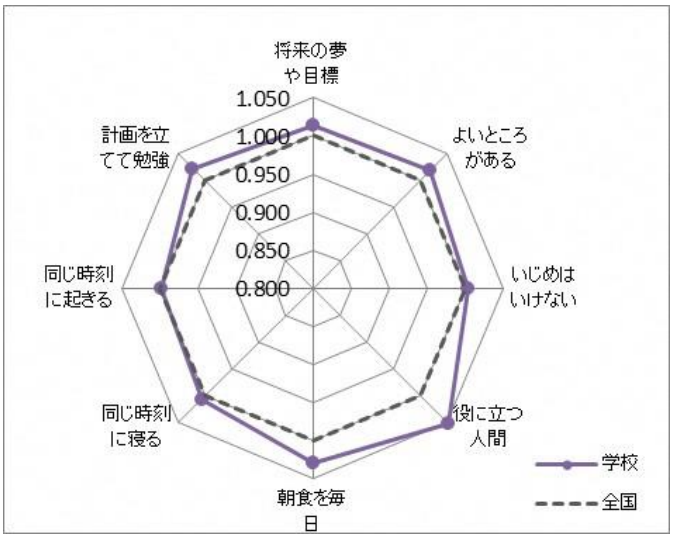
・授業の最後に振り返りとして一時間で学んだことなどを自分なりにかく取組みを継続して行う。また、児童が振り返りをかきやすいように「今日の学習でわかったこと」・「友だちの考えでよかったこと」・「今日の学習でおもしろかったこと、もっとやってみたいこと」の３つの視点を定めている。

・国語の授業の中で音読に取り組む。音読の方法も一通りではなく、一人読み、ペア読み・グループ読みなど多様な音読形態に取り組むことで、音読する力をつける。

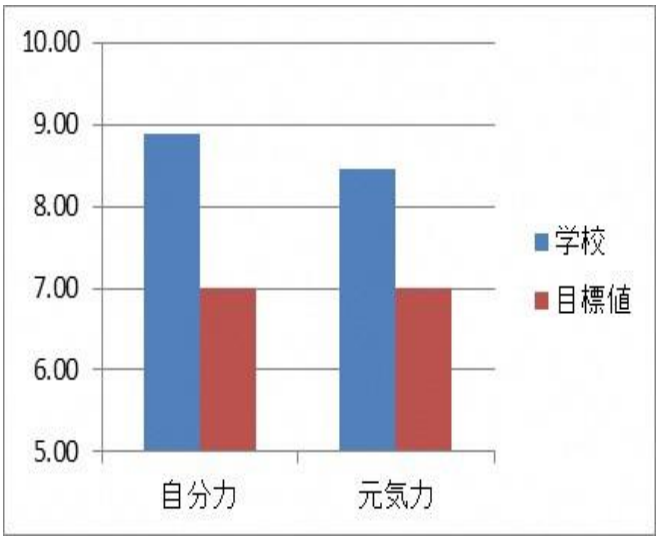
学習への習慣をつけるため、高学年から自主学習に取り組む。

○●子どもたちに育みたい力●○

５つの力　全国平均との比較



５つの力　目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、５つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。
そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は８項目、目標値との比較(棒グラフ)は、３項目とも実施した『自分力』と元気力』のみとなっています。

分析

・いじめはどんな理由があってもいけない、人の役に立ちたいと考えている児童が多い。

・朝食を食べてくる児童がほとんどで、宿題を家でするなど家庭学習の習慣がしっかりと身についている。

・計画を立てて学習をしている児童が多く、見通しをもって取り組むことができている。

取組み

・現在，週に一度行っている朝の時間の一斉読書を継続する。また，児童会活動での図書委員会による，読書週間，読み聞かせ，本の紹介等を継続して行っていく。

・また，全校児童が本と関われる取組みを考えていく。学校図書館支援員と連携し，本に親しみやすい環境を整え、授業の中で読書活動を行っていく。
例えば，毎月図書室に，月々のテーマ（季節やその月の行事など）や各教科に関連した内容のテーマを設定し，書籍の紹介や掲示をする。低学年から高学年まで本の読み聞かせを行い，その後に各学年に適した書籍の紹介もする。

・その他では，地域ボランティアの方と連携して，本に触れる機会を多くつくっていく。

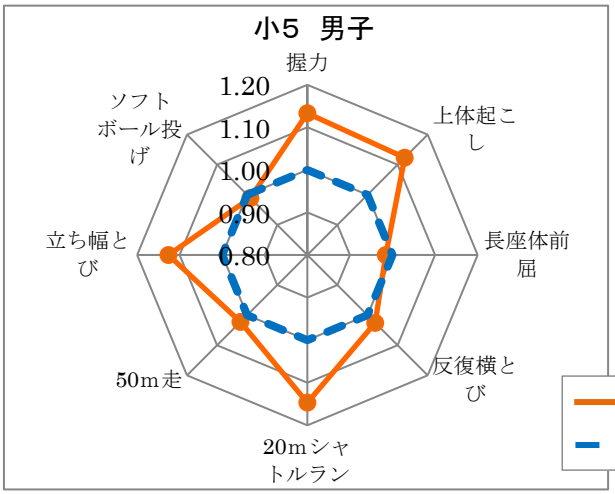
・児童にとって魅力ある授業作りの実践を行う。そのために授業力向上のための研修会等を行う。

・４年生以上の学年では、計画的に学習するよう自主学習に取り組んでいる。

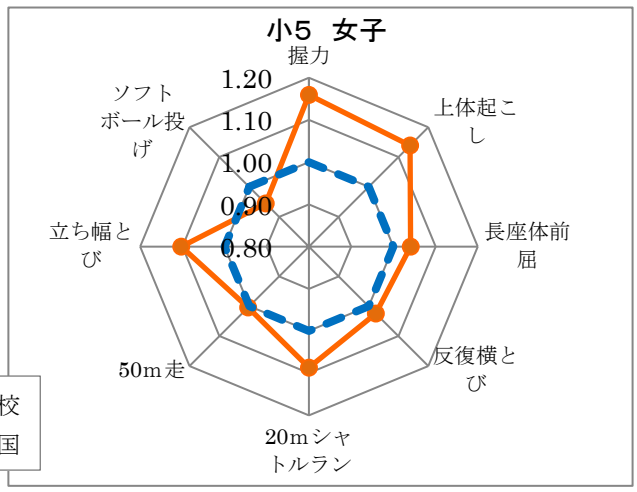
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

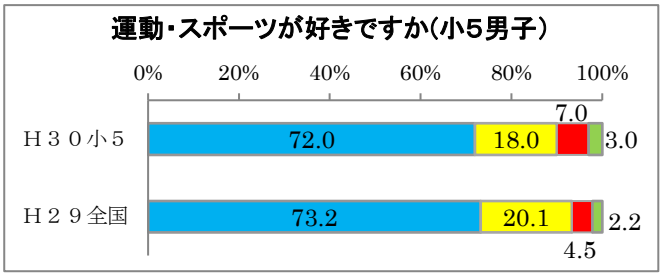
○●体力●○

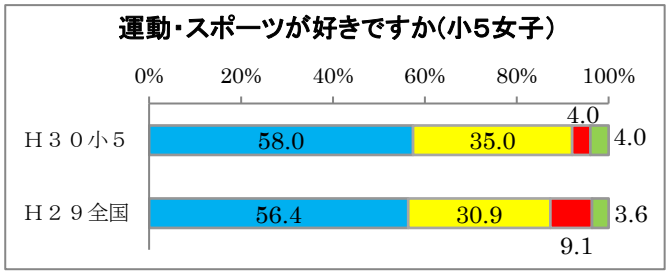
男子（小5）



女子（小5）







好き　やや好き　ややきらい　きらい

分析

- ４年生は男女とも握力が全国平均を上回った。女子は上体起こしも全国平均を上回った。
- ５年生は男女とも握力、立ち幅跳び、２０ｍシャトルラン、上体起こしが全国平均を上回った。
- ６年生は男女とも握力が全国平均を上回った。男子は立ち幅跳びも全国平均を上回った。
- 握力は４，５，６年生全てにおいて全国平均を上回っている。
- ソフトボール投げでは、学年全体の記録がどの学年も伸びてはいるが、引き続き指導を充実していくことが必要である。
- ５年生の児童アンケートでは、運動・スポーツにおいて好意的な女子児童が増加している。５年生男子の大多数は、運動・スポーツにおいて好意的ではあるが、全国平均に比べ下回っている。
- 各学年の結果を踏まえ、実態にあった取り組み、体育学習を進めることで児童の体力を伸ばしていく必要がある。

取組み

- 全学年スポーツテスト実施。
- 体育のあゆみ作成。
- なわとびカード、マラソンカードを校内で統一したものを使用。
- 校内研修の実施。
- 校外でのスポーツ大会への参加。
- 体育学習でのふりかえりカードの活用。
- 運動プログラム、短時間プログラムを活用。
- 茨木っ子運動Ⅱの検証。
- 体育施設、備品、学習具の整備充実。
- 年間指導計画作成。
- 校内研究授業の実施、講師を招いての全体討議会。